



暮らしをきつくる 建設業

建設業界ガイドブック・沖縄版

建設業で働こう!



解説・地域建設企業の役割

つくる・まもる・支える・育てる

若手インタビュー

地域建設業の担い手たち

一般社団法人 沖縄県建設業協会

一般社団法人 沖縄県建設産業団体連合会

地域建設業の 担い手たち



県立前原高校出身
小谷 実貴子さん
(NPO法人 沖縄県建築設計サポートセンター 建築士見習い)

1988年・11月生まれ うるま市出身
2007年・県立前原高校卒業
2011年・関東学院大学工学部建築学科 卒業
・NPO法人 沖縄県建築設計サポートセンター 入社

建物の安全と信頼を設計

構造
設計

構造計算で頑丈な建物をつくる 理解が深まるほど責任の重み増す

建物の安全性を保障

高校2年生くらいでしょうか。テレビで活躍する設計士さんに憧れて、大学の建築科を進学先を選びました。その頃ちょうど、姉齒事件（耐震に必要な建物の構造強度を偽装した事件）が起こり、連日のように大きく報道されていました。その時は重大さが分からなくて。大学で耐震構造の講義を受けてやっと、ことの深刻さに気付いて「構造って重要なんだな」という実感が増していきました。

大学の選択科目も、最初はデザイン系の授業を中心に選択していましたが、構造の重要性に気付いてからは構造系にシフトしていきました。得意だったわけではありませんでしたが、頑丈な建物にするために不可欠だし、勉強するほど面白く感じて。

ですから就職先も建築設計事務所ではなく、構造設計事務所を希望しました。施主が建物を建てる場合は最初、建築設計士が建物の形状や間取りなどを設計します。そして構造設計事務所、設計図面をもとに「この形に建てるには柱が何本必要」とか「鉄筋は何本必要」など、計算をしながら構造設計図をつくっていきます。あまり表には出ませんが、陰ながら建物を支える大切な仕事だと思っています。

社会人になって感じた責任の重み

大好きな仕事ですから面白くてやりがいがある反面、学生の勉強とは違って実務としての責任の重さを感じます。特に、仕事をして構造への理解が深まるほど、安全性への責任の重さを痛感しています。住宅から公共施設まで色々な建物の構造設計に関わりましたが、上司や先輩の指導のもと、絶対にミスがないよう細心の注意を払っています。

また、耐震診断の仕事も行っています。耐震診断は、地震に対する建物の強さを調べるもので、すでに建っている建物を調べます。柱や梁などの劣化状況を目で確認して、内部の劣化はハンマーでたたいた音で聞き分けます。鉄筋コンクリートは内部の鉄筋のサビ等によりコンクリートがはがれたり、浮き上がったりします。この部分をハンマーでたたくと、コンコンという、



構造設計もCADを使って構造設計をする。小さい住宅から大きな公共施設まで、さまざまな構造設計を行う。

空どうをたたいているような音がします。また、仕上げのモルタルが躯体との接着不良で浮き上がっている場合もあるので、音だけでなく、鉄筋のサビ汁などの有無で判断していきます。

まだ修行中ですから、現場では躯体をコンコンとひたすらたたいています。「面白い」と言っているかわかりませんが、最近は見ただけで「これはちょっとやばいな」というのが分かってきました。

将来の夢は構造設計1級建築士

今、一番嬉しいのは、構造計算書の印刷を終えた時。大きな建物の書類では、15センチくらいの厚さになりますから、目の前にすると嬉しくてつい「にやっ」としてしまいます。

また、耐震診断では、判定委員会の審査をパスした時が一番嬉しいですね。判定委員会では大学の先生や専門家による審査を受けるのですが、先輩が建物の構造や年数、劣化の具合などをもとに委員に状況を説明します。それに対して、「こういう考え方もあるのではないか」とか、「ここはこうではないか」などの指摘を受け、先輩が質疑応答するという繰り返しです。審査が厳しい分、パスした時は本当に嬉しいです。

私の将来の目標は、構造設計1級建築士になることですが、まずは1級建築士の資格を取得して、さらに5年間



部内でのミーティング風景。「上司や先輩方のアドバイスはとても参考になるし、専門的な雑談が楽しい」という小谷さん。

構造設計の仕事をしなければ受験資格すら得られない難しい資格です。目標に向けてスタートしたばかりで、ゴールはまだずっと先にありますが、事務所の先輩方も同じ資格を目指しているの、その後ろ姿を追いかけています。

私は物理や数学が得意な方ではありませんが、「できない」ではなく「できる」という信念を持って勉強しています。

そもそも「構造設計士になろう」という目標も、たくさんある選択肢の中から「これはできる」という選択を繰り返して見つけた目標です。

ポジティブに考えていけば可能性が次々とつながり、将来設計も上手く実現できる気がします。この先、例えば結婚や出産することがあっても、その時々可能性をつなげ、上手に仕事と両立していきたいと思っています。

恩納村赤間に多目的運動場が完成

2013年3月に完成した赤間多目的運動場(通称:赤間ドーム)は、地域住民の皆さんがスポーツに親しみ、健康維持を図れるスポーツ施設です。天気や気候に左右されずに年間を通じてスポーツができるので、県外チームのキャンプへの活用も期待されています。プロチームのキャンプが実現すれば、恩納村の新たな観光スポットとして地域振興にも役立つでしょう。

私はこの施設の構造計算に関わりましたので、完成した時はとても嬉しかったです。構造設計士の仕事は設計の一部分ですが、アシスタントとしてこの仕事に関わられて光栄です。今まで携わった仕事ひとつひとつが印象深いです。



2013年3月に完成した赤間ドーム